

弓指寛治 YUMISASHI Kanji

幸 洋子 YUKI Yoko

南條沙歩 NANJO Saho

樋口誠也 HIGUCHI Seiya

伏木 啓 FUSHIKI Kei

村上将城 MURAKAMI Masakuni

山本努武 YAMAMOTO Tsutomu

井垣理史 IGAKI Masashi

風景をうつす

樋口誠也《Some things do not flow in the water》2019年



Reflecting
the
landscape
and
memory

2022年11月5日(土) - 12月4日(日)

開館日時 | 金曜日曜、祝日 / 11:00 - 19:00

会場 | アートラボあいち / Art Lab Aichi

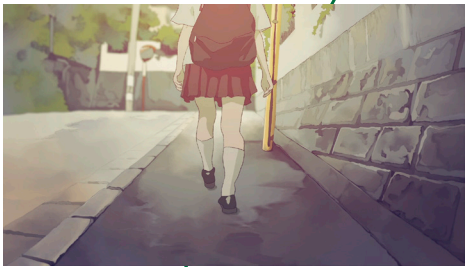
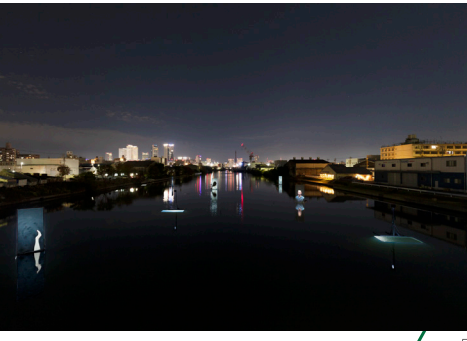
主催 | 名古屋学芸大学、国際芸術祭「あいち」組織委員会

助成 | 一般財団法人地域創造

観覧無料



NUGAS
名古屋学芸大学
nagoya university of arts and sciences



- 1.弓指寛治《鐵の戦士と鉄の巨人》2020年
- 2.幸洋子《私とあなたの観察実験 ～ファンタスティックまぜまぜパラダイス～》2022年
- 3.山本努武《景観の解像度》2017年
- 4.樋口誠也《Some things do not flow in the water》2019年
- 5.伏木啓+村上將城《waltz - 中川運河 2018》2018年
- 6.伏木啓+井垣理史《The Other Side - Installation 2022》2022年
- 7.南條沙歩《微熱》2014年

風景をうつす

Reflecting the landscape and memory

本展では、名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科の卒業生と教員が制作した作品の中から、特定の場や状況の「記録」、または個人的な「記憶」から立ち上げた作品を選び、展示・上映します。本展のタイトルにおける「風景」は、目の前に広がる景観だけではなく、心象風景などの想像や記憶上のイメージが含まれます。

19世紀に発明された写真や映画は、現実を写すメディアとして発展し、テクノロジーの進化と共に現実を越えるリアリティを創造してきました。映像メディア学科では、これらの映像の歴史を辿りながら、映像に留まらない視聴覚文化全般を研究・教育し、多様な卒業生を輩出してきました。本展では、現代美術、映像/アニメーション、写真の領域で活躍する4名の卒業生とともに、視覚メディアと記録/記憶の関わりを、多様な表現手法によって考察します。

アートラボあいち

11:00-19:00 (金土日・祝のみ開館)
〒460-0002 名古屋市中区丸の内三丁目4-13
(愛知県庁大津橋分室2階・3階)
TEL & FAX | (052) 961-6633

E-mail | ala@aichitriennale.jp
URL | <https://aichitriennale.jp/ala/>
アクセス | 地下鉄名城線「市役所」4番出口から徒歩5分
地下鉄桜通線・名城線「久屋大通」1番出口から徒歩8分



出品作家

弓指寛治 (ゆみさし・かんじ)

名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科卒業、名古屋学芸大学大学院 メディア造形研究科修了。母親の死をきっかけに「自死」や「慰霊」をテーマとし創作活動を行っている。ゲンロンカオス*ラウンジ新芸術校(第一期生)にて金賞受賞。2017年、第21回 岡本太郎現代芸術賞(岡本敏子賞)受賞。2019年、あいちトリエンナーレ招聘作家。2021年、VOCA展佳作賞受賞。

幸 洋子 (ゆき・ようこ)

名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科卒業、東京藝術大学大学院 映像研究科アニメーション専攻修了。日々の出来事をもとに、様々な素材で作品を制作している。最新作『ミニミニボックの大きな庭で』(2022)が第75回カルト映画祭でプレミア上映。また、『シャラボンボン/ShalaBonBon』(2019)は、SIGGRAPH ASIA 2020、オタワ国際アニメーション映画祭2020、文化庁メディア芸術祭等にて上映。

南條沙歩 (なんじょう・さほ)

名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科卒業、京都市立芸術大学大学院 美術研究科 絵画専攻構想設計修了。身体感覚を意識しながら、断片的な記憶を気配として描写するような手描きアニメーション作品を制作している。また、フリーのアニメーション作家として、YOASOBI『たぶん』(2020)等のミュージックビデオを多数制作している。

樋口誠也 (ひぐち・せいや)

名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科卒業、名古屋学芸大学大学院 メディア造形研究科修了。現在、名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科 助教。実物ではなく敢えて「映像(イメージ)」を介して見たいことに関心があり、写真・映像を扱った作品を制作している。写真新世紀2020にて、グランプリを受賞。

伏木 啓 (ふしき・けい)

名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科 教授。時間意識における線形性と非線形性の重なりを主題として、身体と映像などのメディアを複合的に扱ったパフォーマンス/舞台作品や、映像インスタレーション等を制作している。

村上將城 (むらかみ・まさくに)

名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科 講師。風景という言葉だけでは回収できない、人の営みによってもたらされる多様な視覚性としての現風景を、写真で記録することを試みている。

山本努武 (やまもと・つとむ)

名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科 准教授。景観や空間を扱った視覚芸術作品を制作。近年は認知心理学における実験や問題を作品要素に引用し、芸術体験とヒトの認知機序の関係性について研究している。

井垣理史 (いがき・まさし)

名古屋学芸大学 メディア造形学部 デザイン学科 准教授。空間表現が専門。様々な素材を用いて「際」や「間」を浮かび上がらせるインスタレーションを制作。また、多数のパフォーマンス/舞台作品にて、空間構成や美術を担当している。

